

黄河の鐵橋

黄河の偉觀

甚しく、土壁銃眼を穿つもの實に之が防備に供へたる當時の遺物なり。午前十時三分、始めて黄河の大堤防を望む。次で橋北より黄河を渡る、列車の鐵橋を馳る九分時、聞く該鐵橋は世界第二の長を有し、長さ約二哩、全部鋼材、其の「スパン」長さは百二十呎、短きも六十呎を下らず。又「ピア」は堅鋼筒にて、地盤を距る五十呎に及ぶもの八本、三十呎のもの六本、工事は河流の時々刻々變じ易きに、而も八、九月は洪水多く、河水氾濫するを以て、幾度か失敗を重ね、經營慘澹、漸く成功を告げ、架橋費一百十餘萬弗、十八ヶ月の日子を要したりと。(舉行し三十八年十一月十三日開始すと)

黄河は其の名の如く、濁流滔々、蜿蜒千里、恰も黃龍の奔放するに似て、實に天下の一偉觀たり。聞く其の河身は、常に位置を變じ、水深亦定りなく、河底は泥土にして藻草を生せずと。沿岸十數隻の船を認め、其の南岸に一小山を見る。山は階段を作りて昇降に便じ、丘の腹脚多く穴棲の民を存す。思はざりき文物駸々の世、支那の中原に當り、而も京漢鐵路の沿線に於て、猶ほ斯の奇態を目撃せんとは。汽車は山腹の隧道を過ぐ、蓋し北京以來初めての洞道にて、通過時僅に二分間、監視房は其の南口西側にありて、中に一名の本邦婦人を見たり。